

No. 7 いすみ鉄道存続について（平成 30 年 5 月受付）

内容	いすみ鉄道の社長鳥塚さんが、退任を表明したことが大きく報道された。是非続けてほしい。ここまできすみ鉄道を有名にし、大多喜に客を集めてくれたのは彼の功績が大きいと思う。数年前まで一人も歩いていなかった城下町通り。最近ではカメラを持ち歩くカップル、個人など見かけない日はない位だ。 社長を続けてもらうよう沿線自治体首長から説得してもらえないだろうか。個人的にも彼にお願いするつもりだ。このまま数年後廃線になった場合慰留しなかった現首長、自治体関連職員の責任は大きい。自治体としての覚悟を彼に示すべきだ。彼以上の人を探すのは0ではないと思うが、いるという保障はない。黒字化の責任を問うのは簡単だが、じゃああんたにできるのかと言いたい。
回答	現社長につきましては、いすみ鉄道存続に係る検証期間の真ただ中であった平成21年6月に社長に就任されました。翌年の平成22年度に、いすみ鉄道再生委員会での検証結果により、いすみ鉄道、地域住民、沿線自治体が一体となって活性化に取り組んでいくことを前提に、また、旅客事業等の損益に対する会社の責務と線路や橋梁等の維持管理及び車輛の設備投資に対する負担を自治体の役割とした、いわゆる上下分離方式のもと いすみ鉄道の存続が決定し現在に至っております。 以降、現社長については、画期的なアイデアや様々な手法により いすみ鉄道及び地域の活性化に貢献いただけてきたところです。 今後においても、会社と自治体が、上下分離方式という各々の役割分担のなかで、経営については次の展開に向けて更なる努力を図っていくことが重要であると考えます。 この度の退任については、現社長ご自身の意向であり、いすみ鉄道と同

	様にご本人にとっても次の展開に向けての決意かと推察いたしますので、御理解いただいたうえ、今後ともいすみ鉄道及び地域の活性化に対して御助言等いただければ幸いに存じます。
--	--